

ウグイ (コイ科)

学名 : *Tribolodon hakonensis*

別名 : アイソ, ハヤ, アカハラ

大きさ : 全長 30 cm

特徴 : 体は側扁し, ウロコが比較的細かい。産卵は春にはじまり, オス・メスともに明瞭な婚姻色をあらわし, 体側に3条からなる赤い縦帯が発現する。追星は頭部と体背面で顕著。浮き石状の砂利や礫底に産卵する。雑食性で藻類や小型の水生生物などを食べる。

ウグイより大型になるマルタ (*Tribolodon brandti*) は, 産卵期にみられる赤い縦帯がウグイの3本に対して1本。河口近くの汽水域で生活することが多く, 産卵期に河川に遡上する。

国内の分布 : ほぼ日本全土

県内の分布 : 霞ヶ浦水系, 利根川, 涸沼, 久慈川や那珂川, 県北地域の各河川など。川の上流域から河口まで広く分布。

県内での生態 : 那珂川や久慈川の漁業者の話を紹介する。4~5月になると, ウグイは婚姻色が鮮やかになり産卵の盛期を迎え,



マルタは産卵のため河口近くの下流域から遡上する。両魚種とも綺麗な石の集まった柔らかい川底に卵を産みつけるという。

漁業者はウグイ瀬, アイソ付けと呼ばれる石を積み上げた産卵場を丹念に作り, そこに集まる婚姻色が鮮やかなウグイを狙う。ところが, せっかく作った産卵場が体の大きなマルタに奪われてしまい, ウグイ漁が成り立たないことがしばしばあるという。「ウシマルタ*のやつはずうずうしい」とはさんざん漁を邪魔されたベテラン漁業者の一言。

*ウシマルタ : マルタの別名。

備考 : 婚姻色鮮やかな 4~5 月が商品価値のある時期で, 漁期となる。塩焼きはアイソ焼きといって親しまれている。